

### 3. 外部評価委員会

#### 評価委員会委員 一覧

- 岩井 雄一 (東京都立青鳥特別支援学校長 全国特別支援学校長会 会長)
- 中西 郁 (東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 統括指導主事)
- 中川 辰雄 (国立大学法人横浜国立大学教育人間科学部 教授)
- 細渕 富夫 (国立大学法人埼玉大学教育学部 教授)
- 北島 善夫 (国立大学法人千葉大学教育学部 准教授)
- 大竹 美登利 (国立大学法人東京学芸大学教育学部 総合教育科学系長)
- 伊藤 友彦 (国立大学法人東京学芸大学教育学部 教授)
- 林 安紀子 (国立大学法人東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授)
- 濱田 豊彦 (国立大学法人東京学芸大学教育学部 准教授)
- 小笠原 恵 (国立大学法人東京学芸大学教育学部 准教授)

○は学外委員

## 平成20年度 第1回評価委員会

日 時：平成21年3月11日（水）13：30～15：00

場 所：総合教育科学系研究棟2号館 3階 発達支援共通ゼミ室

出席者：岩井雄一、中西郁、中川辰雄、細渕富夫、北島善夫（以上5名学外委員；所属、敬称略）  
大竹美登利、伊藤友彦、林安紀子、濱田豊彦、小笠原恵

司 会：濱田豊彦

### 1. 開会のあいさつ

本教育GBの事業推進責任者である伊藤友彦より開会のあいさつがあった。

### 2. 総合教育科学系長（推進委員会委員長）あいさつ

大竹美登利学系長よりあいさつがあった。

### 3. 評価委員紹介

伊藤友彦より出席者の紹介があった。

### 4. 事業概要説明

資料にもとづき、事業全体の概要の説明、及び平成20年度実施経過の報告を伊藤友彦が行い、平成21年度計画について小笠原恵が説明した。その後、学外委員からの質疑やご意見をいただいた。主な内容は、以下の通りであった。

#### ①学部1年生の必修授業「障害児の発達と教育」の充実に関して

- ・経験のない学部学生がこのような広い知識に出会うことは良いことだと思う。現職教員の研修では受講生の興味・関心や必要性の点から、より実践的な内容を扱わざるをえない。教員になる前の学生時代に、特別支援教育や共生社会についての理念などに触れていくことは意味があると思う。
- ・シラバスをみると、広い範囲で特別支援教育の基本的項目を網羅し、多様な障害種別を扱い、その上、実践的な演習も行うことになっている。半期の授業の内容としては盛り込みすぎの印象がある。学部1年生の学びの導入としてのベーシックな授業としてのねらいは評価できるので、今後の授業内容や方法について更に検討を続けてほしい。
- ・介護等体験とのリンクとしても良い効果があると思う。
- ・授業で大学院生のTAが配置されているのは効果的であると思う。
- ・通常学校の教員は、クラス内に気になる児童がいても、どのような観点で児童を理解し、対応したらよいのかという知識やスキルがない。教員になって特別な支援を必要とする児童に出会ったとき、自信を持って対応できるような、身近なところから実態把握できる知識や手法があると良いと思う。

## ②附属学校での「教育実習の充実」に関して

- ・附属学校での教育実習で特別支援コーディネーターからDVDを使った講義を受けるだけでなく、特別な支援が必要な児童への対応に配慮した指導案作りの指導を盛り込むようにできればよい。しかし、そのためには、附属学校の教員の特別支援教育に対する意識や知識を高める必要があるだろう。

## ③「臨床活動の充実」に関して

- ・他専攻の学生を臨床活動に参加させることについては、そのねらいや方法についてよく検討する必要がある。単なる1回限りの見学では、学生にとっても受け入れ側にとってもメリットは少ないと思われる。「臨床活動の充実」については、多人数の学生を対象とするのではない方向で取り組む方がいいのではないか。学生全員を対象とするのであれば、「教育実習の充実」の中での工夫もできるかもしれない。

## 5. 閉会のあいさつ

伊藤友彦より閉会のあいさつがあった。

